

総合計画「次世代への飛躍 輝け！ちば元気プラン」の施策の実施に当たっては、「次世代につなぐ輝くちばへのチャレンジ」として掲げた将来を見据えた横断的な視点を持って取り組むこととし、相乗的な成果や好循環につながるような先導的な取組の実現に向けて具体的な検討を進めてまいります。

## ■横断的な視点を持った取組の実現に向けて

総合計画の各施策の実施に当たっては、「次世代につなぐ輝くちばへのチャレンジ」に掲げた4つの横断的な視点を持って取り組むとともに、相乗的な成果や好循環につながる先導的な取組を庁内各部署で共有するほか、市町村や県民、企業、大学をはじめ様々な関係者へ幅広く示していくなどして、地域の自立的な課題解決能力の向上につなげていくこととしています。

そのため、4つの横断的な視点ごとに喫緊の対応が求められる「政策課題」を設定し、横断的な視点の下での各施策の整理・検討を行うとともに、さらなる課題について相乗的な成果や好循環につながる先導的な取組の実現に向けた検討を進めていきます。

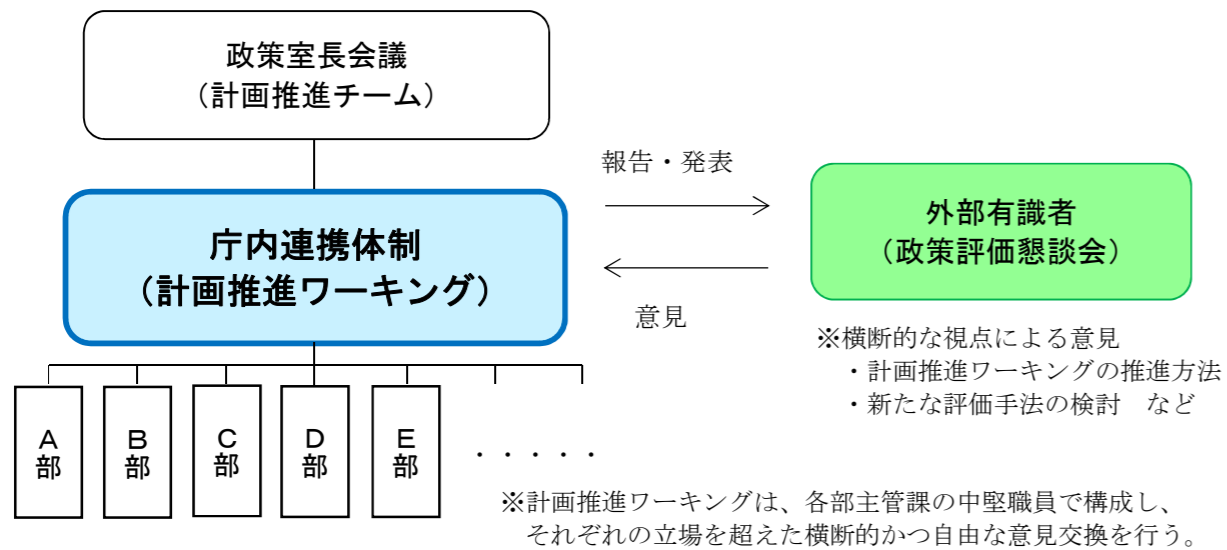
### ○4つの視点と政策課題

4つの視点	政策課題
急激な人口減少・少子化への歯止め	・千葉県経済を支える人づくり
超高齢社会への対応	・移動困難者の地域生活を支える仕組みづくり
交流基盤・ネットワークの整備・活用	・アクアライン・圏央道等を活用した地域づくり
国内外への魅力発信	・「行きたい」「買いたい」「住みたい」という具体的な行動を誘発する魅力発信 ・県民が地域に愛着を持てる魅力づくり

## ■チャレンジの推進体制

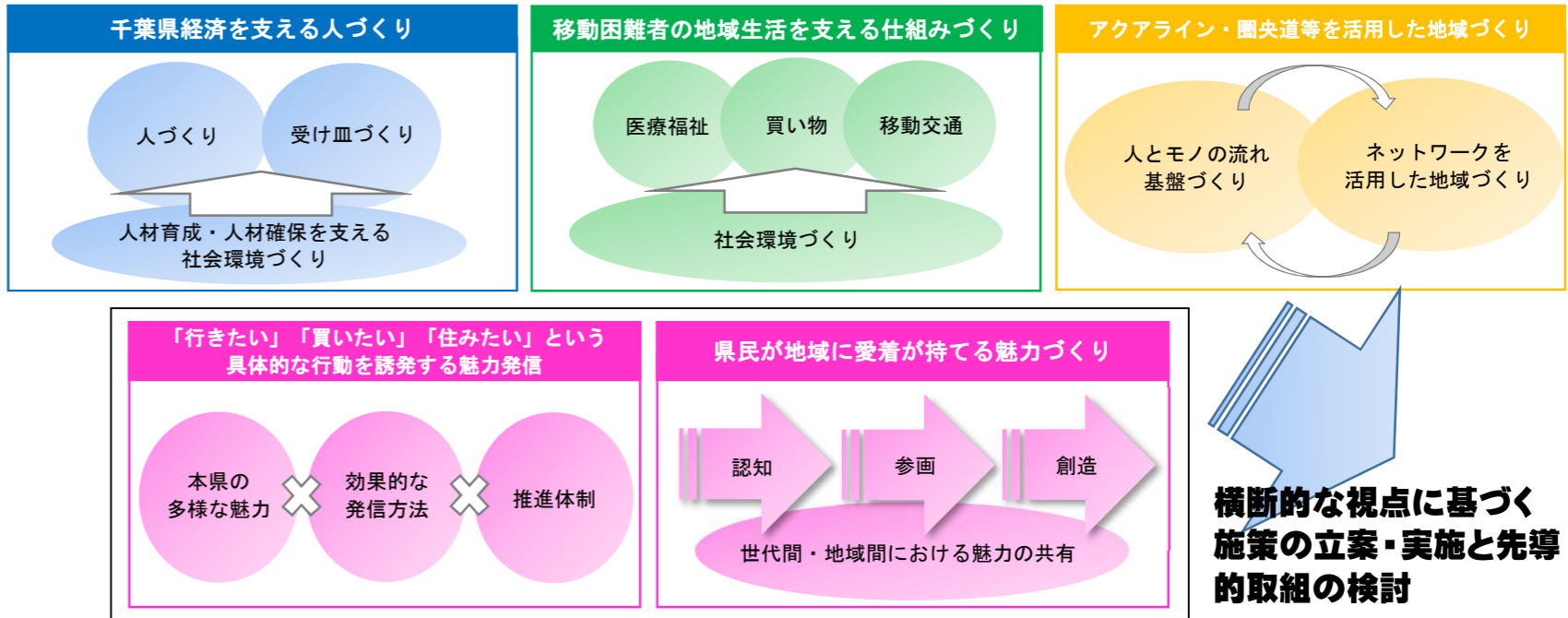
課題や取組等の整理・検討に当たっては、政策室長会議を「総合計画推進チーム」と位置づけ、下部組織として4つの政策課題ごとに各部主管課の中堅職員で構成される「総合計画推進ワーキング（庁内WG）」を設置し、今後の検討課題の整理や課題認識の共有を図ります。

また、整理された課題等については、外部有識者から横断的な視点による意見を伺います。



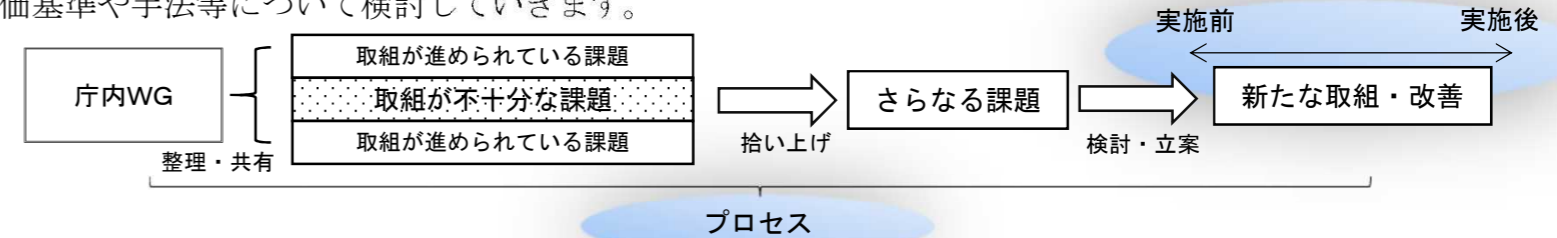
## ■横断的な視点に基づく施策の柱立て

庁内WGにおいては、横断的な視点に基づく施策の柱立てを検討し、既存の課題や取組を整理するとともに、相乗的な成果や好循環につながる先導的な取組の立案・実施について検討していきます。

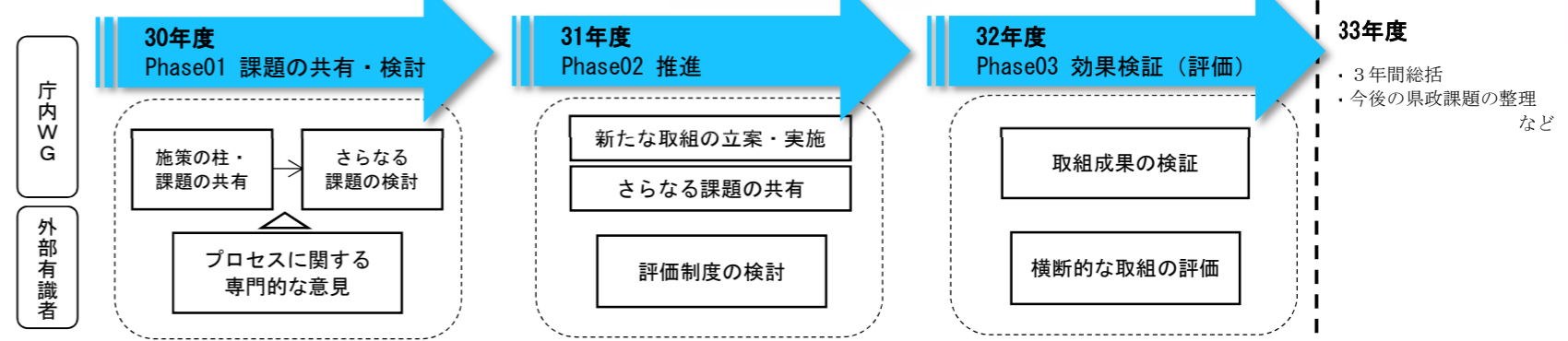


## ■チャレンジの評価（プロセス評価と横断的な取組の評価）

チャレンジの評価に当たっては、庁内WGでの検討プロセスが課題等の拾い上げや取組の改善等に対し有効であったか、また、庁内WGで整理・検討された横断的な取組が政策課題の解決等に対し有効であったか等、多面的な評価基準や手法等について検討していきます。



## ■推進スケジュール

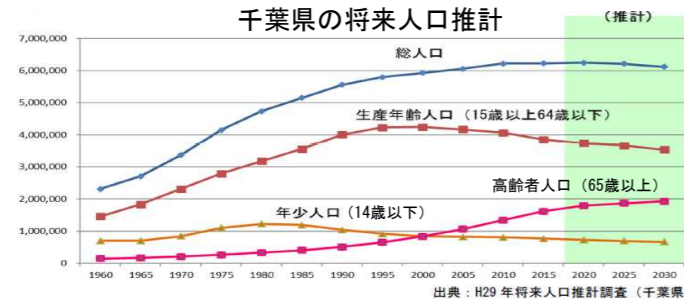


# 急激な人口減少・少子化への歯止め：千葉県経済を支える人づくり（庁内WGでの検討素案）

## 背景・問題

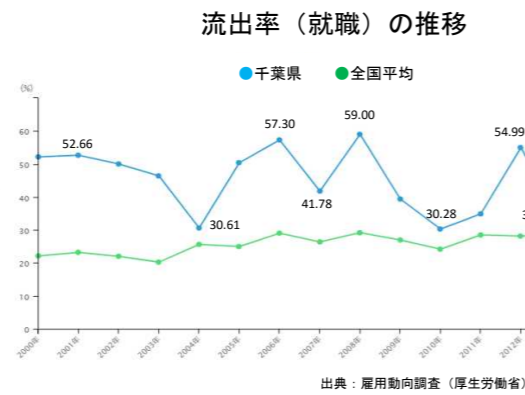
### 県内の生産年齢人口の減少

千葉県の平成30年1月1日現在の人口は629万8千人で、そのうち生産年齢人口（15～64歳）は386万8千人（61.4%）となっていますが、今後、本県の人口及び生産年齢人口は、減少していくことが予想されています。



### 若者など人的資源の県外流出

地元の大学生の多くが、県内にどのような企業があるのかわからないなど、地域産業に対する認識が不足しています。また、マスコミ情報や親・教員の影響などにより、学生の東京・大企業志向が強くなっています。そのため、若者など貴重な人的資源が県外へ流出している現状があります。



### 各産業における担い手不足・人手不足

経済情勢は緩やかな回復基調が続いている中、少子高齢化による新卒者や若年求職者の減少等の影響により、本県の有効求人倍率は平成30年5月で1.36と高水準を維持している一方、各産業分野では、事業活動の維持・拡大に必要な人材の確保が厳しくなっています。

### 経済財政運営と改革の基本方針(骨太の方針)2018

平成30年6月に閣議決定された「骨太の方針2018」では、少子高齢化が進む中、持続的な成長経路の実現に向けた潜在成長率の引き上げを図るため、サプライサイドにおける「人づくり革命」と「生産性革命」に最優先で取り組むとともに、働き方改革を推進していくこととされています。そのうち「人づくり」の分野においては、幼児教育の無償化等による人材への投資や、女性・高齢者をはじめとした多様な人材の活躍に加えて、外国人材の受入れに向けて、新たな在留資格の創設を検討されています。

## 政策課題の設定・課題・取組の柱立て

### 政策課題

# 千葉県経済を支える人づくり

本県では、各産業における人手不足が大きな社会問題となっており、今後の人口減少の局面において次世代を担う若者や子どもたちが活躍し将来にわたって持続可能な社会を構築していく上で、「**千葉県経済を支える人づくり**」が課題となります。このため、担い手の育成などの「**人づくり**」、雇用機会の確保や多様な働き方の実現などの「**受け皿づくり**」、さらに子育て環境や県内産業への認知向上など「**人材育成・人材確保を支える社会環境づくり**」について横断的視点の下で取組を進めていくことが必要となります。

### 課題・取組



新たな課題への対応・横断的視点に基づく先導的な取組の検討

### 人材育成・人材確保を支える社会環境づくり

- 子育て・教育環境の充実**：地域による子育て支援の充実、高等技術専門学校と地域との連携強化 など
- 地域産業への認知向上**：児童生徒・地域住民への認知向上、県外における認知向上 など
- イノベーションを生み出す環境づくり**：産学官連携、ICT利活用、AI・自動運転 など
- 多文化共生社会の実現に向けた環境づくり**：多言語での生活情報の提供・相談体制の充実、地域社会への参加促進 など

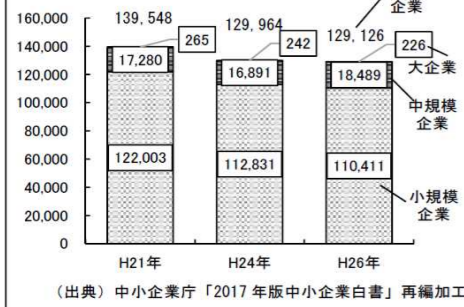
# 千葉県経済を支える人づくり：横断的な視点に基づく取組事例

## 学校教育と連携した中小企業・小規模企業の魅力発信

現在、人材確保が課題となっている中小企業・小規模企業者について、中学校・高等学校における職場体験等を通じてその魅力を発信するため、職場体験等を後押しする様々な情報を提供します。

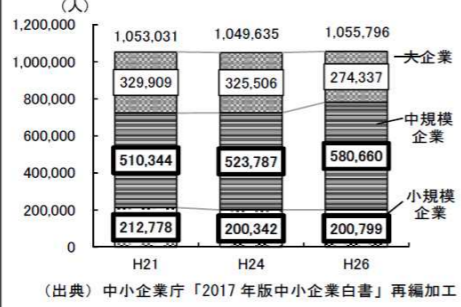
### 背景

県内企業数の推移



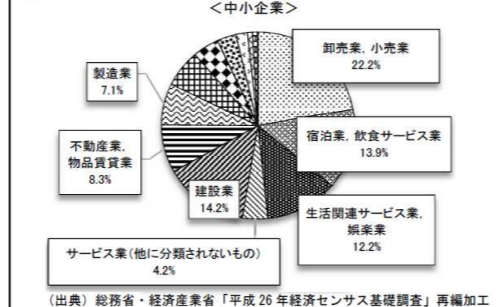
県内中小企業数は減少傾向であり、小規模企業の減少幅が大きい。近年の小規模企業の大幅な減少が地域の活力低下に繋がりがねず、小規模企業の振興が喫緊の課題。

県内規模別常時雇用者数の推移



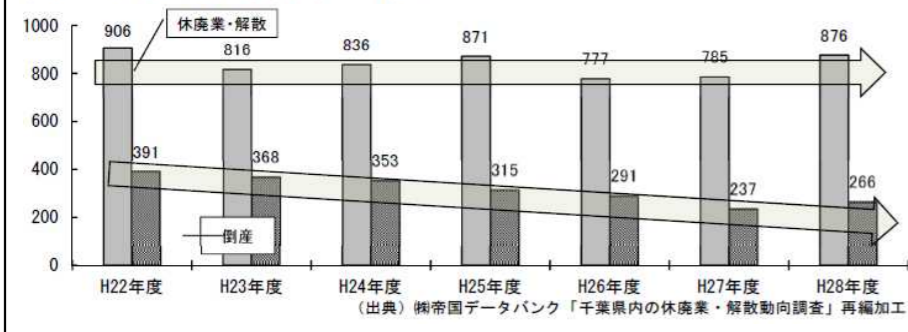
県内企業の99.8%は中小企業であり、常時雇用者数の74%は中小企業に就業し、その比率も増加。中小企業は地域社会の担い手として地域の雇用を支えている。

県内産業別企業数構成比（中小企業、小規模企業）



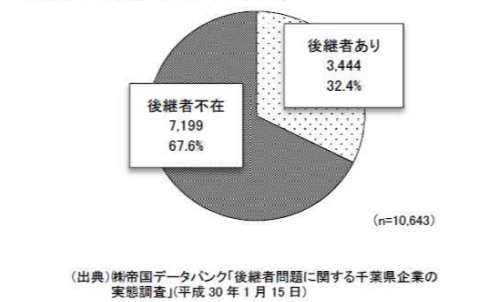
県内の中小企業の業種は、「卸売業、小売業」「宿泊業、飲食サービス業」「生活関連サービス業、娯楽業」など、地域住民の生活に身近なサービスを担う割合が50%を超えており、地域住民の生活向上に大きく寄与している。

県内における休業業・解散と倒産の推移



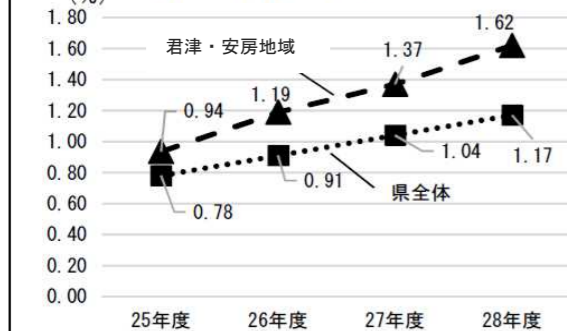
千葉県は開業率だけでなく廃業率も全国上位。倒産件数は減少傾向であるものの、休業業・解散件数は高水準で推移し、中小企業の減少につながっている。

県内企業の後継者の決定状況



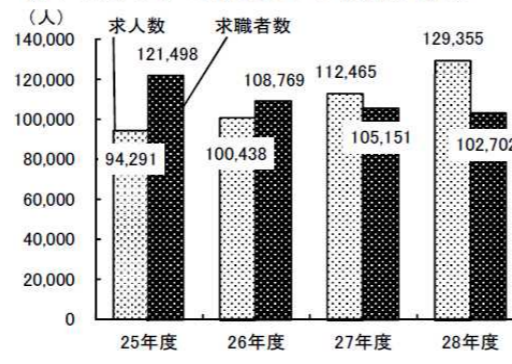
県内企業の67.6%が後継者不在となっている。

県全体における有効求人倍率の推移



県全体における有効求人倍率は、平成28年度までの4年間に0.78から1.17へと一貫して上昇しており、企業の人手不足が大きな課題となっている。

君津・安房地域 地域内求人・求職者数の推移



君津・安房地域では求人数が求職者数を大きく上回っているなど、東京都心から遠い地域ほど人手不足が大きな課題となっている。

### 問題

#### 県内中小企業・小規模企業



【県(商工労働部)の取組】

- 紙媒体・冊子での魅力発信
- 受入企業の情報提供 など

#### 中学校・高等学校



【教育委員会の取組】

- 職場体験
- キャリア教育の推進 など

### 「千葉県経済を支える人づくり」の視点の下での課題

・地域における認知度が低く、人材の確保が困難であることの一因になっている。

・キャリア教育を推進していく上で、職場体験等の受入れ先となる企業の情報が少ない。  
・地域の偏りが大きく、受入企業が固定化。

### 横断的な視点に基づく取組例

#### 県内中小企業・小規模企業

#### 中小企業の受入情報



情報・魅力収集

#### 中学校・高等学校

#### 学校現場のニーズ



情報・魅力発信

### プラットフォームの形成

#### 学校教育と連携した中小企業・小規模企業の魅力発信

県内企業のうち、先進的な職場体験等を実施している企業の基本情報や学校との連携内容等を収集し、県ホームページに掲載します。その情報を学校や企業等に広く周知し、中学校・高等学校が受入企業を探す際に活用してもらうとともに、掲載企業の魅力をPRし、一層の職場体験等の充実を図ります。